

巻頭言

創刊に寄せて

林 文子

このたび財団法人健康文化振興財団では、その事業の一つとして、「健康文化」を刊行するに至りました。テレビニュース・新聞等で、ごく最近の統計で、日本がいよいよ男女ともに世界一の長寿国になったと報道されたことに関心を持たれた方々も多かったと思います。世界に誇るべき成果と言うべきことです。

世界をリードするこの生命の延長をもたらしたのは、文字どおり「厚生」政策をよく検討し、国を挙げて実施してきた結果である事にほかならないと思います。

しかしながら、このように延長された生命、人生の内容が健康で文化的でなければ意味がないことは、今更言われるまでもないことであります。生命の延長に、最も大きく貢献するものは、日進月歩の医学の研究と、それに並行する医療活動でありましょう。医療の中心をなすものは、医師と看護婦との協力活動であり、特に看護の仕事は、古くナイチンゲールにさかのぼる歴史を持つことはよく知られています。これよりも後に発足し、近年大きく進歩した分野は、放射線医学（特にレントゲン学）と臨床検査医学であり、疾病の治療だけでなく、精密診断、さらに予防（たとえば集団検診）におけるこの二分野の果たす役割は大きく、その研究の推進は極めて重要であります。

特に筆者が、年来参画して来た診療放射線技術学における長年蓄積した情報の提供、新しい研究活動の助成、ときには近隣諸国との留学生交流などを通じて、広く健康と文化の振興に、本財団が聊かでも寄与できるならば、この上ない喜びと存ずる次第です。

（健康文化振興財団理事長・名古屋大学医療技術短期大学部教授）